

令和5年度（上半期）の 主な取組みについて

100年に一度のまちづくり・にぎわいづくり

北陸新幹線 福井・敦賀開業間近



敦賀駅での初入線歓迎イベント

9月23日に車両走行試験が始まり、初入線歓迎式典を開催しました。10月1日には、県内4駅で入線歓迎セレモニーが開催され、2,000人を超える県民がW7系を歓迎しました。また、県民自ら本県の盛り上りを伝える「情熱駅長」約1,000人が、開業PR用動画の撮影に参加しました。

幹線道路網の整備進展



中部縦貫自動車道 勝原・九頭竜間開通

10月28日に、中部縦貫自動車道の勝原～九頭竜間が開通しました。11月には国道417号「冠山峠道路」が開通し、中京圏とのアクセスがさらに向上します。また、10月29日には舞鶴若狭自動車道で県内初の4車線化工事に伴う着工式が開催され、県境のフロンティア転換が進んでいます。

観光地の磨き上げ



リニューアルした恐竜博物館

世界三大恐竜博物館の一つに数えられる県立恐竜博物館が7月14日にリニューアルオープン。恐竜の全身骨格を50体に増やすとともに、大迫力のCG恐竜映像を上映する「3面ダイノシアター」や、化石クリーニングなどの化石研究体験ができる機能が追加され、大幅に魅力アップしました。

二次交通の充実



移動をエンタメ化する恐竜列車

地域交通の「恐竜コンセプト」によるエンタメ化や、キャッシュレス決済やタクシー配車アプリの導入といったデジタル化を推進。また、あわら温泉と恐竜博物館等を結ぶ「あわら恐竜号」と「周遊ループバス」の実証運行を開始したほか、着地型観光バスツアー「はびバス」の運行に向けた準備も進めています。

誘客プロモーションの強化



カウントダウンキャンペーン

9月30日から10月9日の間、北陸新幹線の起点となる東京駅や丸の内周辺施設において、開業カウントダウンキャンペーンを実施しました。また、嶺南以西への誘客促進のため「青々吉日TSURUGA WAKASA」周遊キャンペーンのPRもスタートしました。

スポーツによる交流人口拡大



福井ブローウィンズ B3リーグ開幕戦

シニア世代を対象とした総合スポーツ大会「日本スポーツマスターズ2023福井大会」が開催され、約17,000人が県内外から参加しました。また、本県初のプロバスケットボールクラブ「福井ブローウィンズ」がB3リーグに新規参入し開幕戦を勝利で飾るなど、スポーツが大きく盛り上がっています。

日本一幸福な子育て県「ふく育県」

ゆりかごから巣立ちまで切れ目ない支援



令和6年9月から第2子以降の保育料無償化や在宅育児応援手当支給の所得制限を撤廃することを決定しました。また、男性が育児休業を取得しやすい職場環境整備を促進する企業を応援するため、1社あたり最大600万円超の奨励金を支給する制度を創設しました。

地域全体で子育てをサポート



地域全体で若い世代を応援していくため、妊婦や子育て世帯の外出をサポートする「ふく育タクシー」の運行を10月末からスタートしました。また、子育て世帯の家事・育児をサポートする「ふく育さん」については、11月から試行を開始します。

子育て世帯の移住促進

10月に大阪で開催された子育て世帯向けのイベントに初出展し、「ふく育県」に代表される本県の生活環境をPRしました。また、新たにInstagramを立ち上げ、移住関連イベント情報等の発信を開始したほか、移住サポーター18名1団体を新規に委嘱し、交流会を開催するなど、「人が人を呼ぶ」活動を促進しています。



子育て世帯向けイベントへの出展

暮らしの安心・安全の向上

物価高克服に向けた経済対策



幸せ実感（ウェルビーイング）社会の実現に向けた共同宣言

電気料・燃料価格高騰の影響を受けている事業者に対する給付金の支給や、県内中小企業の取引適正化、賃上げに向けた伴走支援などの経済対策を実施しています。9月には、日本一の「幸せ実感社会」の実現に向けて、経済団体や労働団体など11団体で共同宣言を発出しました。

「防災先進県ふくい」の確立



7月大雨被害の様子

国や市町等と連携し、災害の発生を前提として、事前に取り組むべき行動を時系列で整理した行動計画「ふくい県域タイムライン」の試行運用を6月から開始しました。7月には非常に激しい雨により、嶺北を中心に通行止め等がありましたが、被災道路等の速やかな本復旧および災害防止に努めています。

デジタル地域通貨の導入



デジタル地域通貨「ふくいのはぴコイン」の運用開始に向け、システム構築、加盟店募集など準備を進めてきました。また、健康アプリと連携し、歩数に応じたポイントを付与する実証事業にも着手するとともに、講習会などデジタルデバ

長期ビジョンの着実な推進

若者や女性の活躍を徹底応援



女性活躍や働き方改革、子育て支援をさらに前に進めるため、8月から本県初となる女性副知事を登用しました。男性も女性もともに楽しむ家事・育児の推進や、学生や若者のスタートアップ支援など、若者や女性の活躍できる環境づくりを進めています。

次世代を担う人材の育成



県立大学勝山キャンパス（仮称）イメージ図

令和7年4月の県立大学恐竜学部（仮称）の開設に向け学部棟の実施設設計を進めるとともに、オープンキャンパスで学部のPRを行いました。また、学生が企業や自治体と協働して地域課題解決に取り組む活動や、園芸・林業・水産カレッジでの研修などにより、人材育成を進めています。

県民一人ひとりの幸せ実感社会へ



ふくい多文化共生プロモーター

外国人も暮らしやすい地域に向けて、外国人地域おこし協力隊「ふくい多文化共生プロモーター」を新たに委嘱し、情報発信活動などに取り組んでいます。また、多様な価値観を認め合う共生社会の実現を目指し、福井県パートナーシップ宣誓制度を導入します。

ゼロカーボンふくいの推進



電力使用量の削減による家計負担の軽減と、家庭部門の温室効果ガス削減のため、「ふく割」の仕組みを活用して省エネ家電の購入を後押しする「省エネ家電割」を実施しています。また、電気自動車など次世代自動車の購入に向けた支援にも取り組んでいます。

地域課題解決に向けたDX推進



市町職員を対象とした研修（市町ブートキャンプ）

野村総合研究所による都道府県別デジタル度調査において全国1位を獲得しました。業務課題の解決を図る各市町のDXリーダーを育成するワークショップの開催や、企業のDX化の伴走支援を行っており、引き続きデジタル人材の育成や、業務効率化・高付加価値化に取り組めます。

稼げる農林水産業の創出

香福の極み



10月5日に産官学で協定を締結し、サバやアカウニの陸上養殖の事業化に向けた実証試験を開始しました。また、いちほまれ新CM放映や、そばの新キャッチコピー作成、首都圏飲食店でフェア開催など、国内販路の拡大とブランド力の強化を進めています。

新時代スタートアップ

主要プロジェクト



(1)ふくいエンタメ計画 ～ふくいの魅力をとがらせよう～

観光、文化、スポーツ等の尖った魅力で多くの人を呼び込み、
県民も来訪者も、誰もが楽しめる場所・機会をみんなでつくります。

○観光・まちづくりに重点投資

新幹線駅周辺のまちづくり

北陸新幹線福井・敦賀開業に向け、新幹線駅設置市と協働し、駅周辺に各地域の特長を活かした魅力的な空間を形成し賑わいを創出します。

■ 福井駅西口市街地再開発を支援

福井駅前電車通り北地区において、A街区では建築工事に対する支援、B街区では実施設計に対する支援を行いました。



■ 「県都グランドデザイン」に基づき、福井城址の活用や足羽川周辺のにぎわい創出など官民連携による県都のまちづくりを推進

福井城坤櫓の復元に向けた基本設計や石垣の調査を進めています。

まちづくり福井(株)による足羽川アクティビティセンター(仮称)の設計やにぎわい創出イベントの開催を福井市とともに支援しています。



■ 新幹線駅の駅前広場の整備や金ヶ崎地区等を中心とした敦賀のまちづくりを推進

芦原温泉駅の東口交通広場や東西自由通路が9月に供用開始されました。

また、敦賀の金ヶ崎地区や神楽通りのまちづくりに向けた協議を市や地元とともに進めています。



■ 県内新幹線駅からの二次交通の充実

あわら市内で観光定額タクシーの運行が8月から開始され、10月からは東尋坊行きの路線バスを増発しています。

また、鉄道や路線バスへの交通系ICカードの導入、タクシーへの配車アプリやキャッシュレス端末の導入を支援しています。



観光客の心をつかむ魅力づくり

観光リゾートエリアの形成により、本県の観光資源の魅力を高めるとともに、食の発信や定期観光バスツアーの造成などを推進し、新幹線開業に向け、誘客を拡大します。

■ 恐竜博物館のフルモデルチェンジに向け、整備を促進

大幅に更新した常設展示のほか、「化石研究体験」、「3面ダイノシアター」を新たに追加するなど、開館記念日である7月14日にリニューアルオープン。リニューアル後、10月までに約52万人が来館しました。



■ 東尋坊・三方五湖エリアにおける観光拠点整備を支援

東尋坊の駐車場一元化や商店街の再整備、三方五湖周辺の飲食空間づくりや舟小屋改修などを支援しています。



■ 若狭湾サイクリングルート of 走行環境・受入環境等を整備

安全にサイクリングを楽しむために、道路の案内表示や看板整備を進めています。

また、サイクリングガイド養成講座の開催(延べ受講者69人)や「わかさいくるサイクリストに優しい宿」認定制度として23事業所を認定するなど、受入環境の整備を進めています。



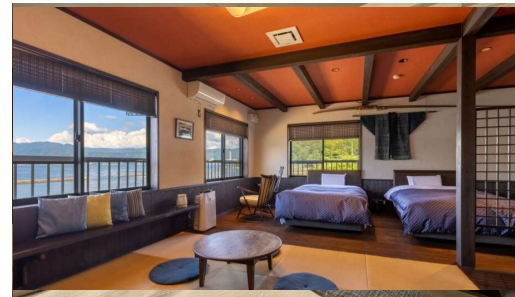
■ 新幹線利用客をターゲットとした駅発着の**観光バスツアーの造成**

新幹線で福井を訪れる観光客に向けて、県内の魅力的な観光地をめぐる新幹線駅発着のバスツアー「はぴバス」を運行するため、テストツアーを行っています。



■ 多様かつ魅力的な**宿泊施設**の整備を支援

伝統工芸を取り入れたコンセプトルームやペットと泊まれる宿、サイクリストに優しい宿など、今年度10市町29施設の取組を採択。多様で魅力的な宿泊施設整備を支援しています。



■ 福井を舞台とした**大河ドラマ**や**朝ドラ**を誘致

福井を舞台とした大河ドラマや朝ドラ等の実現に向けて、NHKに要望を実施します。



■ 日本一選ばれるお米「**いちほまれ**」に向け販売店舗を拡大

9月 23 日からの新米販売に合わせて、CM発表会や販売開始イベントのほか、量販店での販売強化、米穀専門店との産地連携などに取り組んでいます。



■ 「**日本一のそばどころ**」ふくいを全国に発信

福井のそばを PR するため「香福の極み越前蕎麦」をキャッチコピーに周知活動を行っています。
11月18日・19日には、「福井そば博 2023」を企画し、県外客に向け発信しています。



■ ブランド魚「若狭ぐじ」「**越前がれい**」「**ふくい甘えび**」「若狭まはた」等、 四季を通して発信

嶺南と嶺北を結ぶ活魚車の導入や、受発注システムの導入などを支援するとともに、北陸新幹線福井・敦賀開業に合わせてポップアップストアを開設するなど、ブランド魚を PR していきます。



■ **美食福井が誇る食材**の一体的なプロモーションを強化

県産食材の特徴や固有のストーリーを発信する動画・特集 WEB ページを作成し順次公開中。
北陸新幹線福井・敦賀開業に合わせ、令和6年1月から2月にかけては、首都圏飲食店において県産食材フェアを開催します。



■ 都市圏のターゲット層に対して“**売り**”となる**必食の逸品**を発信

名物料理の提供店を増やすとともに、県内での盛り上げを創出するため、キャンペーンを実施します。



- 食ブランド向上につながる飲食店等の開設を支援し、**魅力的な食を楽しむ「場」**を拡大

国内外の有名店で修業したシェフがいるフランス料理店など4件を採択。食ブランド向上につながる飲食店の開設を支援していきます。



- インバウンド対策 **Wi-Fi・キャッシュレス決済・免税店**を整備

福井を訪れた外国人観光客が快適に旅行できるよう、市町との協働によりWi-Fiやキャッシュレスなどインバウンド受入環境整備を推進しています。
また、今年度、一括型免税カウンターを設置する民間事業者1社に対して、費用を補助し、免税店の増加を図っています。



- 敦賀以西への誘客促進のため**嶺南誘客キャンペーン**を開催

9月27日に実行委員会総会を開催し、「青々吉日 TSURUGA WAKASA」周遊キャンペーンのPRが始まりました。



- **ふくい桜マラソン開催**に向けた機運を醸成

「ふくい桜マラソン 2024」のランナー募集(7/6～11/10)を開始し、県内外のマラソン大会やイベント等に出向して大会のPRを行いました。



- トップスポーツチームを「**ふくい県民応援チーム(愛称:FUKUIRAYS)**」として徹底応援

ふるさと納税と企業版ふるさと納税を「FUKUIRAYS」6チームの強化費やPR経費等に活用。県民が福井のスポーツを楽しむ盛り上がる環境づくりを推進しています。



- 「**スポジョブふくい**」によるアスリートのUターンを推進

「スポジョブふくい」によるアスリートの就職支援を実施し、12人が令和6年春採用内定しました。
また、令和7年春就職に向けたインターンシップ等の活動支援も開始しました。



○国体レガシーを活かし、「アスリートの聖地」へ

スポーツによるまちづくり・交流人口拡大

スポーツ大会の連続開催や県内のトップスポーツチームの活躍応援など、スポーツをまちづくりや交流人口の拡大に活かします。

- **アスリートナイトゲームズ、日本スポーツマスタース2023福井大会**などスポーツイベントの開催を支援

9月の日本スポーツマスタース2023福井大会では、韓国選手団約200名を含む約17,000名の選手・関係者が県内外から参加。福井の魅力を存分にアピールする機会となりました。



○まちと暮らしに音楽・アート

デザイン・アートなど「若者・よそ者」が集まるまちづくり

芸術文化に親しむ機会を充実するとともに、フェス等の賑わいイベントを拡大し、多彩な楽しみにあふれる「おもしろい」まちづくりを進めます。

- 誰もが発表できる「**まちなかステージ**」の設置を支援

あわら市(アフレア)、越前市(武生中央公園)に新たなステージを設置。10月末までに585人のアーティストが音楽やダンスを披露し、まちなかのにぎわい創出に寄与しました。



■ アーティストが地域資源を活かして制作活動を行う**アートプロジェクト**を応援

アートを活用した地域活性化等の取組み42件に対して支援を行っているほか、「アーティスト・サポーター」として地域おこし協力隊を委嘱し、文化芸術団体への助言や相談対応等の活動支援に取り組んでいます。



■ 県内デザイナーと連携し、**一乗谷朝倉氏遺跡全体の誘客**策を展開

県内デザイナーがプロデュースする「一乗谷文化祭」を北陸新幹線福井・敦賀開業に合わせて企画し、一乗谷朝倉氏遺跡や一乗谷朝倉氏遺跡博物館の魅力を発信します。



伝統工芸を活かした新時代のまちづくり

千年文化の象徴である伝統工芸産地における体験型イベント等を拡充し、新たな賑わい創出と産地力向上を実現します。

■ **丹南伝統工芸産地**における本物体験プログラムを造成

伝統的なものづくりが継承される工芸産地において、手仕事の見学やホンモノを感じられる体験プログラムの造成に取り組んでいます。



■ 県内外のデザイナー等と連携し**伝統工芸ブランド「F-TRAD」**による商品を開発

県外デザイナー8人と伝統工芸産地の事業者がコラボレーションし、「F-TRAD」商品の開発を進めています。



(2)次世代チャレンジ宣言 ～チャレンジで未来をつくろう～

「次世代ファースト」の観点から、創業支援、働き方改革により若者に魅力ある仕事を創り、尖った企業・人材を増やします。

○新分野チャレンジ「創業するならふくい」

多様な企業誘致の推進

大規模な産業団地の造成を進め、高級ホテルやITサテライトオフィス、本社機能の誘致や投資拡大により、さらなる経済発展と雇用創出を実現します。

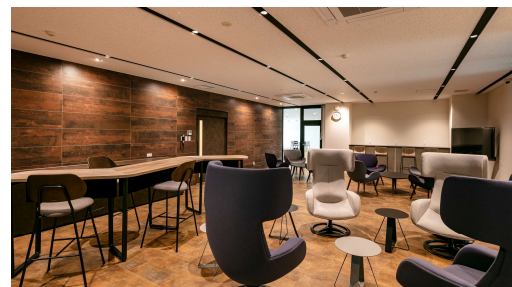
■ 知事のトップセールスによる企業の誘致を促進

知事トップセールスによる誘致活動により、海外企業との共同出資により日本酒の輸出拡大を図る企業の竣工式が実施されました。



■ 高付加価値企業や、都市圏同様の待遇の維持など魅力ある企業を誘致

Uターン者の受け皿となるオフィス系企業の誘致に向けて交渉を進めています。



「福井型エコシステム」の構築

地域内でお金・人・技術等の経営資源が循環する仕組みを構築し、次代を担う産業人材の育成と有望ベンチャーを創出します。

■ 専門家等による事業計画磨き上げや個別メンタリングで有望ベンチャーを育成

第9回ベンチャーピッチでは、6名(予定)の経営者が登壇し、支援機関やパートナー企業に対してプレゼンテーションを行います。



■ 独創的なアイデアを持つ学生・若者スタートアップを創出

30代以下の若者を対象に、起業マインドの醸成、ビジネスアイデアのブラッシュアップを図るとともに、同じ志を持つ仲間とのコミュニティが形成できるよう、ワークショップやメンターによる個別指導を計8回実施しました。



■ 事業承継に向けた企業価値向上と県外人材等による第三者承継を支援

県外人材等による第三者承継を進めるため、サーチファンドを活用した事業承継を支援しています。また、県内中小企業30社の企業価値向上に向けた取組みを支援。優れた技術を持つ企業や地域の豊かな暮らしを支える県内企業の維持発展を図っています。



■ 働きやすい職場づくりに取り組む「社員ファースト企業」を拡大

県内企業による働きやすい職場環境づくりへの支援や取組事例の積極的な発信により、「社員ファースト」宣言企業は341社に拡大しました。また、働く人を大切にする「ウェルビーイング経営」についてのセミナーを実施し、131名の経営者等が参加しました。



成長産業へのチャレンジ応援

伝統のものづくり技術を活かし、航空機産業やヘルスケア産業など次世代産業における技術・製品開発を進めるとともに、農林水産業の成長産業化を促進します。

■ 産業技術総合研究所の北陸デジタルものづくりセンターと連携し、デジタルものづくり分野における共同研究をスタート

金属加工、スマートテキスタイルに関する共同研究を11月からスタートします。



■ SDGs関連など成長の見込まれる分野の可能性調査・技術開発

県内企業が参画する、リサイクルや省エネルギー等に資する 12 件の可能性調査や技術開発がスタートしました。



■ 嶺南エコースト計画に基づくスマートエネルギーエリアを形成

嶺南市町が進めるスマートタウンのモデル地区整備に対して、嶺南スマートエリア推進補助金を活用し、支援しています。
また、水素フォークリフトの導入実証など、新エネルギーや再生可能エネルギーの活用に向けた取組みも行っています。



■ 「立地地域の将来像に関する共創会議」で示された将来像の実現に向け、

国や立地市町、電力事業者とともに取組を推進

共創会議でとりまとめた「将来像の実現に向けた基本方針と取組」の実現に向け、6月に共創会議が開催され、40のプロジェクトの進捗状況として、高速炉研究開発の中核的拠点化に向けた調査をはじめ、今年度実施する様々な取組について報告されました。
また、関係人口の増加やリサイクルビジネスの事業化に向け、タスクフォースにおいて議論が実施されました。



■ ICTを活用したスマート農業を推進

精度の高い作業ができるよう、今年度新たに9経営体に対して、GPS 固定基地局を活用したスマート農機の導入を支援しています。



■ 大規模水田園芸、大規模施設園芸の推進により園芸産出額を拡大

今年度新たに2事業者に対して、ミディトマト(美浜町)やイチゴ(越前市)の大規模でICTを活用したスマート園芸施設の導入を支援しています。



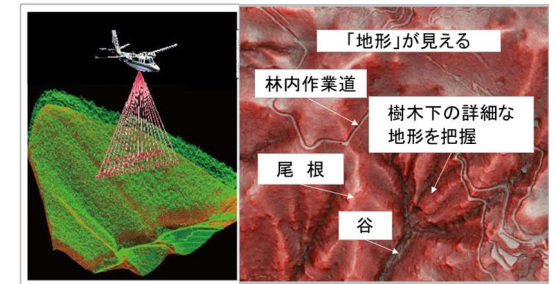
■ 「ふくい型林業経営モデル」の構築による主伐・再造林を推進

県内 10 か所に「ふくい型林業経営モデル」のPR 林を設定し、主伐・再造林の効率化に関する手法などを検証しています。



■ 航空レーザ計測による高精度の森林情報を共有・活用し、林業DXを推進

空から地形・資源のデジタル化を行い県内約半分の地形の計測が完了しました。
また、森林所有者が現地をイメージしやすいように、地形図を三次元化するアプリの導入支援を行いました。



■ 体験型イベント「フクモクフェス」を開催し、県産材の利用と理解を促進

10月21日・22日にサンドーム福井にて「フクモクフェス」を初開催し、約 11,000 人の方に来場いただきました。



■ 水産学術産業拠点で水産増養殖の共同研究を開始、**養殖生産規模の拡大**を支援

10月5日に県、大学、民間企業等と「嶺南地域における水産業の共同研究等に関する協定」を締結し、サバやアカウニの陸上養殖の事業化に向けた実証試験を開始しました。



■ **農遊コンシェルジュ**を育成し、農村回遊を進め、農山漁村の交流人口を拡大

8～10月に農遊スタンプラリーを開催し、県内外の方が農村を周遊しました。



■ IoT・AI・5G等の先端技術の導入による企業の**業務効率化、高付加価値化**を支援

県内企業の生産性向上や競争力強化のため、AIなどのデジタル技術を活用した業務効率化や新サービスの提供を行う取組みを24件採択しました。



■ **県外IT人材の雇用、副業・兼業の都市部人材の活用**により県内企業の成長を支援

企業が抱える経営課題を解決し、付加価値づくりを図るプログラム「ふくい企業価値共創ラボ」を9月から開始し、5人が都市部から移住しました。半年間、県立大学でリカレント教育を受けながら、企業の新規事業やマーケティング戦略立案などに取り組みます。



産学官連携による地域人材の輩出

若者に魅力のある学びの場の創出や、福井の特色を活かした新学部・新学科の創設等により、県内外から学生を呼び込み、福井を支える産業人材を輩出します。

■ 県立大学に「**恐竜学部(仮称)**」を新設

令和7年4月の学部開設に向け、勝山市に設置予定の学部棟の実設計を進めるとともに、オープンキャンパスでの学部PRを行いました。



■ 大学と産業界等との連携により社会人の**リスキリング教育**を展開

リスキリングの気運醸成に向けて、中小企業が行う短期研修等に対する補助制度を新たに設け、5社に支援を行いました。また、高度人材の育成のため、大学等へ派遣を行う企業に対する補助制度も新たに創設しました。



○次世代を担う人材の輩出

AI時代に活躍する人材育成

AI、IoTなど最新技術を活用できる人材の育成を進め、産業の高付加価値化と関連ビジネスの集積を目指します。

■ DXラボと支援機関が連携し、**企業のDX推進を伴走支援**

ふくいDXオープンラボの相談員が県内の商工会や金融機関で出張相談会を開催し、19件の相談対応を行いました。また、企業がDXに取り組む体制整備を支援するため、3社への伴走支援を開始しました。



■ 学生、転職者等を対象にITスクールを開講し、企業の**IT人材を育成・確保**

県内で活躍するIT人材を育成するため、10月から「ふくいITエンジニア養成スクール」を開講し、24名が受講しています。



■ 企業・市町・県と協働したPBLを推進し「ふくい創生人材」を輩出

県内大学の学生・教員が企業や自治体と協働して地域の課題解決に取り組むPBL(プロジェクト型学習)を合計101件実施しました。



■ 園芸・林業・水産カレッジにて次世代の農林水産業人材を育成

各カレッジでは、83人(農60・林3・水20)の受講者が研修を受けています。



日本一の出会い・子育て応援

県と市町が協力して全県的な出会い応援の仕組みをつくるとともに、「子だくさんふくいプロジェクト」を推進し、将来を担う子どもたちが生まれ、育ちやすい「日本一の出会い・子育て応援社会」をつくりま

■ ふくい結婚応援協議会を核としたオールふくいの結婚支援

女性を対象に「ふく恋」利用登録料半額等キャンペーンやイベントを開催し、出会いの機会を拡大、昨年同期を上回る14件の成婚がありました。
また、若い新婚世帯の経済的負担を軽減するため、支援金を最大100万円に拡充しました。



■ 男性の育休取得を当たり前。長期間の育休を取りやすい職場環境整備を支援

男性労働者が通算15日以上の子育休を取得した企業に対して最大600万円超の奨励金を支給し、男性が育休を取得しやすい職場環境整備を促進する企業を応援しています。



■ 「ふく育」応援団が子育て家庭と妊婦を応援。社会全体で子育てを応援する機運を醸成

「ふく育ポイント」の発行に向け、妊婦や子育て世帯に優待サービスを提供する「ふく育」応援団店舗を増やし、計1,841店舗(10月末)が登録しています。



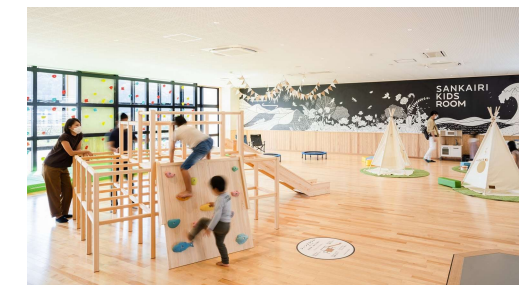
■ 核家族でも安心。「ふく育タクシー」、ふくい家事育児サポーター「ふく育さん」を整備

妊婦や子育て世帯の外出をサポートする「ふく育タクシー」の運行が10月末から始まりました。
また、ふくい家事育児サポーター「ふく育さん」の利用は、11月から始まります。



■ 地域における全天候型の遊び場の整備を支援

心身ともに健やかな子どもの育ちを支援するため、天候に関わらず子どもたちが安心して遊ぶことのできる遊び場の充実を図っています。
現在、各市町が全天候型の遊び場整備に向けた検討を進めています。



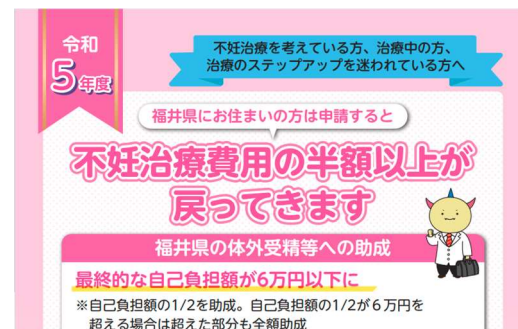
■ 第2子以降の負担を軽減。「子だくさんふくいプロジェクト」を実施

令和6年9月から始まる第2子の保育料無償化と第2子以降の在宅育児応援手当支給の所得制限撤廃に向けて、必要な準備を進めています。



■ 子どもが欲しい世帯に**日本一の不妊治療助成**を実施

体外受精や顕微授精の不妊治療を受けた方を対象に、最終的な自己負担額が基本的に6万円を超えないよう助成しています。



■ **フォスタリング機関**による里親の確保、マッチング支援、質の高い里親養育を実現

制度に関する一般の方からの相談や研修、普及啓発、こどもと里親のマッチング、里親になってからのサポートまで、里親やこどもをトータルにサポートしています。



■ 「**ふく育県**」を全国に PR。子育て世代の移住を促進

県外の若者や子育て世帯を対象に、本県の充実した子育て環境や子育て施策等をPRし、「ふく育県」のイメージ定着や移住定住につなげるキャンペーンを展開しています。



(3)しあわせアクション運動 ～一人ひとりがプレイヤーになろう～

それぞれが自分の立場でできることを考え、持ち寄る
「県民総参加」の社会をつくれます。

○県民の“夢実現”を徹底応援

県民の主体的な活動を応援

自らの夢実現や生きがい充実に努力する県民の活動を応援し、一人ひとりのアクションの積み重ねにより、地域を活性化します。

■ 地域のリーダーとなる若者を育成する**教育プログラムコース**を実施

地域のリーダーとなる若者を育成する実験的仮想大学「エキセントリック・カレッジふくい」に高校生から若手社会人までの33名が入校しました。

3月まで、県内外のエキセントリックな講師を招き、様々な講義やフィールドワークを実施していきます。



■ ふるさと納税活用の**クラウドファンディング**により県民活動を応援

ふるさと納税を活用し、13 事業のクラウドファンディングを支援しました。全ての事業が目標金額を達成し、子どもの近視予防に関する紙芝居の製作や、キッチンカーでイカ丼を提供するプロジェクトなどが実現しました。



■ 県民の自信と誇りを醸成する「**ふくい最高！プロジェクト**」を実施

県民の新たな挑戦や活動、地域の自慢など、ふくいにある「最高！」を見つけ出し、県民に共有するキャンペーンを開始しました。また、「ふくい最高！」ロゴマークを活用した県民の活動応援にも取り組んでいます。



○課題解決へ県民アクション

県民との協働による地域力向上

まちづくりや地域課題解決に向けた県民の主体的な活動を拡げるとともに、さまざまなプレイヤーが協働することにより、新たな活力を生み出します。

■ 「**SDGsパートナー**」の登録拡大、連携により次世代を育成

パートナーの登録・連携を促進するため、SDGsコーディネーターを3名委嘱。パートナー登録数は1000 機関を突破しました。また、パートナーの取組みを周知し、県民に活動実践を促すSDGs月間「ジュナナチャレンジ」(9～10 月)を実施。特設サイトで114 件の取組みをPRしました。



■ 県内デザイナー等との協働による「**政策デザイン**」を推進

県内デザイナー等との政策検討ワークショップを19 回開催しました。また、政策立案の上流部分から県民目線で質の高い政策を立案するため、知事とデザイナーによる政策検討ミーティングを2回実施しました。



■ 県と**市町協働**による課題解決策の検討やシステム標準化・共同化を推進

業務課題の解決を図る各市町のDXリーダーを育成するワークショップを開催するとともに、システム標準化やマイナンバー情報総点検の課題に対して市町会議を開催するなど、共同で取り組みました。



■ 「**サービス連携基盤**」・「**デジタル地域通貨**」を利活用し、生活DXを推進

デジタル地域通貨の11月運用開始に向け、システム構築、加盟店募集、名称「ふくいハピコイン」の決定などの準備を進めるとともに、サービス連携基盤と連携する健康アプリの使い方講習会を開催し、高齢者等のデジタルデバイドの対応にも取り組みました。



■ 外国人が**「住み・働きやすい環境」**を整備し、活躍を促進

外国人地域おこし協力隊「ふくい多文化共生プロモーター」を委嘱し、多文化共生活動の情報発信や、マッチング、様々な仕掛けづくりに取り組んでもらいます。



■ 「ふくい“しあわせ実感”パートナープラン」に基づく男女共生社会の実現に向けた取り組みを促進

働きやすい職場環境づくりや女性の育成・登用を促進する「ふくい女性活躍推進企業」の登録を進め、10月末現在358社に登録いただきました。また、女性リーダー育成研修「ハッピーキャリア“縁”カレッジ」を開講し、企業で働く女性61名がリーダーに必要な心構えや実践的なビジネススキルについて学んでいます。



○ローカルチャレンジ「移住するならふくい」

関係人口の創出・拡大

都市部の学生や社会人に向け、地域との「関わりしろ」となるプロジェクトや交流の機会を提供するなど、福井に呼び込む仕掛けをつくり、地域の活性化につなげます。

■ アートキャンプなど**「学生の長期滞在型キャンプ」**の実施を支援

県内3地区（鯖江市、坂井市、小浜市）において、8～9月に学生の夏季キャンプを実施しました。学生は、今後も週末等を利用して来県するなど、グループで取り組んでいる地域課題のプロジェクトを継続します。



■ 都市部の専門人材を呼び込む**「地方兼業」**の取り組みを拡大

都市部で働く専門家（データ分析、デジタル人材育成、システム開発等）を兼業委嘱し、政策立案や事業執行のアドバイスや職員向けセミナーを通じ、高度な知見を県施策へ還元しました。



■ 地域との交流や体験活動を促進する**「ワーケーション」**の受入を推進

「ふく育県」の子育て環境を体験しながらワーケーションを実施できるよう、11月からの受入に向けて市町や保育所等と連携した受入体制の構築を進めました。



■ しごと・住まい・定着支援を組み合わせた**「移住応援パック」**を発信

8月から移住応援パックの発信を開始しました。また、若者向け移住体験ツアーを2回、子育て世帯向け移住体験ツアーを1回開催し、合わせて32名が参加しました。



都市部への「攻め」の移住政策

関西・中京からの移住促進体制を強化するとともに、都市部在住者に対する就職・就農・事業承継など、多様なマッチングを行い、ふくいにおける新たなチャレンジを促進します。

■ 子育て世代への**「移住支援金」**を加算

移住支援金の子育て加算を拡充した結果、東京圏型7件、全国型40件の子育て加算を支給しました。



■ 福井の生活環境をPRする動画配信等を行い、**「福井への移住ブーム」**を創出

6月にInstagramアカウントを立ち上げ、移住関連イベント情報等の発信を開始しました。また、11月からのドラマ動画の撮影、SNSキャンペーンの開始に向けて準備を進めました。



■ 若者や子育て世代やシングルマザーなど新たな移住者層を開拓

10月に大阪で開催された子育て世帯向けのイベントに初めて出展し、「ふく育県」に代表される本県の生活環境をPRしました。



■ 移住サポーターによる情報発信や現地コーディネートなど、「人が人を呼ぶ」活動を促進

9月から、移住サポーターを新たに18名1団体に委嘱し、合わせて37名6団体の活動を支援しています。10月には、新たに加わった移住サポーターも交えた交流会を開催しました。

